

## 第6回四日市市総合計画策定委員会 会議録

■日時：令和元年10月29日（火）15：00～17：15

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室、中会議室

■出席者：

林良嗣委員（委員長）、種橋潤治委員（副委員長）、甘利正晴委員、上野尚子委員、田中幸司委員、仲範和委員、野村愛一郎委員、前田明子委員、増沢陽子委員、水谷孝子委員、山原裕美委員、渡邊勝幸委員、館英次委員

■欠席者：

田端文音委員、宮西マリア委員、荒木栄里子委員、岸村吉偉委員、杉浦礼子委員、水谷重信委員、森寺浩一委員、山下智香委員

■議事：

1. 四日市市総合計画（2020年度～2029年度）（素案）への追加・修正について
2. 新総合計画の推進に向けた意見交換
3. その他

### 1. 四日市市総合計画（2020年度～2029年度）（素案）への追加・修正について

委員長 ・本日は、四日市市総合計画策定委員会として最終回となる。

- ・資料2に‘10年後の未来（目指す姿）’に向けた4つの都市像がある。この表記が横に並んでいるのに対して、右側にある基本構想のところでは縦に並んでいるので、縦横を揃えていただくよう事務局にお願いしたい。
- ・また、4つの都市像を実現させるための政策について、最後のページにマトリックス形式で事務局にまとめていただいた。縦軸は分野別基本政策で、横軸は将来都市像となっている。
- ・本日は後半でグループ別に議論をしていただく予定であるが、その前にこれまで当委員会でもいただいたご意見や議会特別委員会での意見、パブリックコメントに対する意見を受けて、どのように素案を修正したのかを説明していただきたい。

事務局

[資料説明]

委員長 ・ご意見、ご質問はあるか。

委員 K ・資料2 p.5～6について、パブリックコメント案から修正案に至るまでの間に、国際海上コンテナ物流機能という表現に変わっているが、この修正の意図はどのようなものか。

事務局 ・国土交通省を含めた関係機関への要望等を踏まえると、港湾計画に沿った表現に合わせたほうがよいのではないかとの意見が四日市港管理組合からあったため、その趣旨を踏まえて文言を調整した。

- 委員 K ・大規模地震発生時の対応には、短期的な問題と長期的な問題がある。修正案の文言だと長期的な問題に対応するという点だけに焦点が当てられている。国際という言葉が出ていることで、災害時の緊急時対応、具体的には国内からの災害物資等のコンテナ輸送という部分が抜け落ちているように感じる。
- 事務局 ・現在、四日市港には耐震強化岸壁が千歳・霞ヶ浦南ふ頭の2箇所にある。緊急時における一般的な物流需要についてはこれらの岸壁で対応することになるが、コンテナ専用の耐震岸壁がないことから、霞ヶ浦北ふ頭にコンテナに特化した耐震岸壁を整備したいということでこのように記載した。
- 委員 K ・国際という言葉を使うと、一方で、なぜ国内は含めていけないのかということになる。将来的に見たときに、この背景には、神戸港の震災時に国際コンテナ機能が失われたことが大きな問題になったことが議論に上がった。
- 委員 E ・国際と表現しているのは国等への予算要望に向けたもので、国際ふ頭の整備に向けて、政府の方針に沿って国に予算を認めてもらえるように総合計画に記載しておくことだと理解している。
- 委員長 ・ここでは緊急輸送と大きな国際航路との2つのことを一緒に記述してある。どちらも必要なので、‘大規模地震発生時における緊急輸送及び国際航路’あるいは‘国際海上コンテナ機能と物流機能’などの表現にしてはどうか。
- 委員長 ・別の論点だが、4つの都市像に対して、重点的横断戦略プランが3つになっている。資料2のp.1とp.4を見ると、リージョンコア四日市に産業・交流拠点都市と環境・防災先進都市が並んでいるが、環境・防災先進都市とリージョンコアのつながりがあまりピンとこない。したがって、サステイナブル&レジデント四日市みたいな表現にして、環境に配慮しつつ災害が起こっても対応できる都市にしていけないといけない。
- 委員長 ・この後は、分野別のグループに分かれて、意見交換を進めていただきたい。

## 2. 新総合計画の推進に向けた意見交換

### (1) 分野別意見交換

#### 【出された意見】

《テーマ》充実した人生を歩むための基盤を育み、誰もが憧れる 『子育て・教育安心都市』

項目	意見概要
子どもを主役とした施策の推進について	○「子育てするなら四日市プラス」という親の支援を中心とした重点的横断戦略プランが掲げられているが、実施の際には、子どもを主役とした施策を積極的に推進することも重要である。

項目	意見概要
	○10年の間には、子ども関係の条例制定なども検討して欲しい。
公立幼稚園について	○公立幼稚園に関する今後の方向性が見えにくく、不安に感じている親が多くなっているため、情報を丁寧に伝える努力が必要である。
学童保育について	○今後、学童保育の重要性はさらに高まっていくことから、民設民営であることの課題も踏まえながら、量の充足と併せて質の向上などを図ることが求められる。
教育施設の再編について	○今後、老朽化による学校施設の建替えの際には、単なる更新ではなく、幼稚園、小学校、中学校、公民館の施設を集約するなど、長期的な視点での施設整備を検討していくべきである。
スポーツ・健康づくりについて	○スポーツ・健康づくりは大切なテーマだが、世代や主体によりバラバラに実施されていることから、老若男女が一緒に取り組んだり、各々の実施主体が連携したりするなど、効果的な取組を進めることが求められる。 ○会場への移動手段や駐車場などのアクセス面での課題が参加への阻害要因にもなっているため、改善が求められる。
メディアリテラシーについて	○メディアリテラシーは、人権のみならず幅広い分野に関わってくる重要な課題であることから、教育のなかできちんと取り上げていく必要がある。

《テーマ》東海地域をリードし、地域社会のイノベーションを誘発する 『産業・交流拠点都市』

項目	意見概要
市政全般について	○計画期間である10年間は前計画の期間と比べて、スピード感が格段に速くなるため、時間や空間の変化にどう対応するかが重要である。 ○「継承可能都市」となるための具体的な取組を進めることが不可欠である。
産業全般について	○大きなプロジェクトは、事業スケジュールなどを行政と民間とが共有したうえで推進することが望ましい。 ○様々な産業が他のまちとの差別化を図り、‘四日市ならでは’の事業展開をできるよう、独自化・ブランド化などの取組を地域や民間企業と行政が一緒になって進める必要がある。
中心市街地の活性化について	○商業・サービス業にとって、地域を挙げてキャッシュレス化に対応する必要がある。
道路や公共交通について	○道路の渋滞緩和に継続して取り組んでいただきたい。 ○多様な公共交通サービスを提供する一方、自動運転やパーソナルモビリティの導入などにより、とくにラストワンマイルにおける市民の移動手段の確保を進める必要がある。

項目	意見概要
農業の振興について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業事業者の規模や耕作する作物の種類に応じたきめの細かな支援をお願いしたい。</li> <li>○スマート農業や農業機械の導入により、効率化が期待される反面、耕作規模や地域の特性に応じたカスタマイズをする必要があり、投資に係る経済的な負担を軽減する施策が望まれる。</li> </ul>

《テーマ》まちの未来を守り、将来の市民にバトンをつなぐ 『環境・防災先進都市』

項目	意見概要
環境施策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境分野の重点的横断戦略はテクノロジーの側面が強調されすぎて、環境保全の面がわかりにくくなっている。環境の保全が第一であることを忘れないでいただきたい。</li> <li>○農地の保全や里山の維持、森林の手入れは、民間の土地であるため、行政が積極的に何かを行うことはできないが、状況を注視して、企業の協力も得ながら取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
環境と防災施策の関係性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害対応の面からも上下水道施設の更新が必要である。ただし、インフラ整備にはお金がかかるため、全てを賄うことはできない。優先順位を決めて、計画的に推進する必要がある。</li> </ul>
防災について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時の連絡網を携帯電話に変えてきているが、全員が持っているわけではなく、電源の関係で使えなくなる可能性もある。緊急告知ラジオの配布など、情報の伝達手段を確保していただきたい。</li> <li>○災害対策のなかには、寝室での家具の固定・撤去などお金をかけずにできることもあるので、計画期間の10年で啓発を進めていく必要がある。</li> <li>○災害は必ず起こると想定して準備を進めてほしい。仮設住宅の設置戸数や場所、災害ごみの集積場所などの計画が必要である。</li> <li>○地域の担い手となる人材がいない。雇用延長制度等により、地域活動をする時間・期間が少なくなっている。新たな人材の発掘・育成が課題である。</li> <li>○地域マネージャー制度は、内容を見直しつつ継続していただきたい。</li> </ul>

《テーマ》四日市市に集まる人々の力を、まちづくりの原動力にする 『健康・生活充実都市』

項目	意見概要
高齢者の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寝たきり老人にならないようにするためには、地域ぐるみの健康づくりの取組を定着させる必要がある。</li> <li>○市民一人ひとりの健康づくりに対する意識とスキルを高めることが重要になる。そのためにも、専門家による教室等を開催して、正し</li> </ul>

項目	意見概要
	<p>い知識を身に付け楽しく活動できるようにすることが大切である。</p> <p>○正しい知識のもとで健康づくりに取り組めば、高齢者でも能力を伸ばせることができる。専門家の指導があれば高齢者の自立促進にもつながるので、ぜひ進めていただきたい。</p>
高齢者の活躍の場づくり	<p>○定年延長や再雇用期間の延長によって高齢になっても仕事を続ける人が増えているため、地域活動の担い手が高齢化している。そのために、再雇用期間に仕事と地域活動が両立できるようにすることが必要である。</p> <p>○自分の知識と経験を、子どもたちや若い起業家に伝えて役立ちたいと思う高齢者は多い。こうした人材をマッチングするバンク的な仕組みがあるとよい。</p> <p>○何か活動しようとするとう交通費等の経費がかかるため、活動する人の持ち出しだけでは継続しない。少額でも報酬があれば活動を続けることができる。活動を継続させるためには、お金が回る仕組みをつくる必要がある。</p>
高齢者の生活支援	<p>○高齢者世帯にとってゴミ出しが負担となっている現状を解決する取組が求められる。</p> <p>○高齢者の生活を支援するために、宅配サービスや有償ボランティアの仕組みが必要である。</p> <p>○ボランティアの担い手として高齢者の活躍が期待される。</p>
二地域居住・リモートワーク	<p>○四日市市であれば、居住しながら東京で仕事をするリモートワークが可能である。リニア中央新幹線が開通すれば、その可能性がさらに高まると思われる。</p> <p>○四日市市で子育てしながら東京で仕事をするというスタイルをもっとアピールしてはどうか。そのためには、四日市市が住みたいと思えるまちになることが必要である。</p>
在宅医療	<p>○5G通信が普及すれば、リモート診療が簡単にできるようになるので、在宅医療を促進するべきである。</p> <p>○後期高齢者の増加で在宅医療の重要性が高まる。また、在宅医療が進めば、高齢者の通院に係るコストの抑制や移動に伴う環境負荷も軽減することから、リモート診療を推進する必要がある。</p>
高齢者の移動手段	<p>○今後、免許返納が必要な高齢者が増加するが、現状のバスやタクシーは高齢者にとって使いにくい面もある。引きこもりの高齢者を増やさないう、移動手段の確保が求められる。</p> <p>○高齢者にとって使いやすいのはドア・ツー・ドアの移動サービスである。今後、自動運転技術が進歩すれば可能性が高まることから、自動運転の取組を進めることが重要である。</p>

## (2) 全体意見交換

各グループのファシリテーターが議論の概要を報告

- 委員長
- ・総合計画は、まちの将来をつくる非常に重要なものであり、それをどう推進するかという判断基準をつくるために何回も議論を重ねてきた。そのなかで、委員の皆さんの深い見識には感心させられ、たくさんの知恵をいただいた。
  - ・事務局はまとめ方を工夫して、‘これだ’と言えるような表現を検討していただきたい。
  - ・今後、本日の意見交換会の議論をもとに正副委員長で提言書を取りまとめ、市に提出させていただきたいと考えるが、一任いただいてよろしいか。

[異議なしの声]

- 委員長
- ・今後、総合計画をもとにして個別計画が策定されると思うが、この総合計画がすべての計画の手本になればありがたいと思っている。皆さん、長い間ありがとう。

## 3 その他

### ・市長あいさつ

- 森市長
- ・昨年8月にスタートした総合計画策定委員会は6回にわたり開催され、活発なご議論をいただいた。林委員長、種橋副委員長をはじめ、委員の皆様には本当に感謝している。
  - ・この後、議会での議決を経て策定完了となるため、もうひと山残っている状態ではあるが、策定委員会で様々なご議論をいただくとともに、多くの声を聞くことで、市民の考えを踏まえた総合計画になった。この新しい総合計画を実行していくために、行政が引っ張っていきたいと考えている。
  - ・今後10年間は、リニア中央新幹線の開通など外部関係も大きく変わってくる。こういったなかで、本市が名古屋圏において存在感を示していく、大きく成長していくことが重要であると考えている。
  - ・地方創生がうたわれ、地方でも多くの自治体がなかなか自立できないなか、幸いにも本市には多くの産業があり、多くの市民がいる。次の10年間をこの総合計画のもと、四日市の総力を結集して乗りきり、さらなる発展を遂げていきたい。
  - ・来年4月から新たな総合計画が始まるが、委員の皆様には総合計画がしっかりと実行されているか、厳しい目で見守っていただきたいと思っている。
  - ・委員の皆さんにさらなるご協力をお願い申し上げ、私の最後のあいさつとさせていただきます。

- ・本委員会をもって、四日市市総合計画策定委員会は終了とする。

以上